令和４年度　第３回　AI による下水処理場運転操作デジタル トランスフォーメーション(DX) 検討会　議事概要（案）

1.　日　時　　令和5年2月 22 日(水) 09:30～11:30

2.　場　所　　(公財)日本下水道新技術機構 8階 特別会議室

【座長挨拶】

本検討会も 3 回目となりいくつか論点も出てきました。本日は環境整備が論点となります。

それ以外にも幾つかの論点、人と AI の関係性の在り方や、データは誰のものなのかといった論点もあります。技術継承や効率的な下水道整備という視点において、AI の普及が必要です。時代の流れとしても、建設と管理の一体化、マネジメントの時代、PPP、PFIも進められています。AI の活用は、こうした政策を進める上で重要なテーマであり、必須のものと思います。

その一方でデータの正確性や透明性などの障害があります。昨年 2 月には、ベンダーロックの問題が公正取引委員会で独占禁止法違反に当たる可能性もあることが指摘されています。下水道業界もしっかり対応しないといけないと思います。海外事例や国内の他の業界がどうなっているのか、今後調べていく必要があると思います。

今回は今年度最後となるため活発な意見を頂き、年度の取りまとめに向けて、皆さんのご協力を頂ければと思っています。

【議事概要】

事務局から配布資料について説明が行われた後、委員の意見を伺った。

委員からの主な意見は以下のとおりである。

<u>○AI による下水処理場運転操作 DX 検討会の今後の進め方について</u>

- 今年度は論点整理としてまとめ、その内容を公表したい。
- データの所有については、法的な解釈も含めて議論を深める必要がある。

<u>○必要な環境整備について</u>

- AI の普及を考えると、データ活用した AI ガイダンスと自動制御は議論を分けて、データ活用の論点を整理したほうが良い。
- ベンダーロックインの議論は、海外や他分野の事例を今後確認していき、論点を整理していく必要がある。
- 下水処理場の運転管理への AI 適用に対しても、海外や国内の状況を今後確認していく必要がある。

- セキュリティ確保した状況下で、データをオープン化する方法について議論を深めていきたい。
- データを活用する際に、保存データを取り出せるようにしておき、取り出すための費用が高額になる状況は変えていく必要がある。
- データの利用障壁をなくすことと、市場の参入障壁をなくし参入を促し市場を形成することは異なる。市場形成による費用負担の軽減についても議論できると良い。
- AI に関しては既設メーカが有利ということではなく、AI ベンダーを横一線で比較できるようにするべきである。
- コンセッションを構成する企業間ではデータ活用が進みやすいのか、整理していきたい。
- AI におけるデータ活用の文脈では、計測値等の生データと、そこからクレンジング等を経た学習用データとを明確に区別する必要がある。これらのデータを広く活用できるようになると AI ベンダーの参入が活発化するのではないか。
- ベンダーフリーにおけるリスクヘッジの仕方についても今後整理していけると良い。
- 情報共有の方法については、下水道業界としての一定の方針を決めておきたい。

以上